

もこそあれど、なにごともおぼしわかざるほどに、いかでもかくもと思しめざる、御物のけな
どさまく、まげきさま也、この頃一條院にぞおはします、夏の事なれば、さらぬ人だにやすくも
あらぬに、いみじうくるしげにおはしますも、見奉りつかうまつる人や、すくもあらすなげく、六
月七八九日〇寛弘八年の程なり、いまはかくておりのなむとおぼすを、さるべきさまにおきて給へ
とおほせらるれば、殿うけたまはらせ給て、春宮〇三に御たいめんこそは例の事なれど、思し
おきてさせ給程に、東宮行啓あり、みすどしに御たいめありて、あるべき事ども申させ給、よには
おどろく、まうきこえさせつれど、いとさはやかによろづの事聞えさせ給へば、世の人のそら
ごとをもまけるかなど宮はおぼさるべし、おほかたの御まつりごとにも、とし頃またくなど
侍りつるをのこともに御ようい有べきものなり、みだり心ちおこたるまでも、ほいとげはべり
なんとし侍り、またさらぬにてもあるべき心ちもし侍らすなど、さまく、あはれに申させ給ふ、
春宮も御目のごはせ給べし、さてかへらせ給ぬ、うへは御心ちのくるしうおぼえさせ給まゝに
も、みやの御まへをまつはし聞えさせ給へば、かたときたちさり聞え給はず、いとくるしげにお
はします、御讓位六月十三日なり、十四日より御こゝちおもらせ給ふ、〇節

〔百練抄四後朱雀〕寛徳二年正月十六日、讓位於皇太子、〇後冷泉依自去冬玉體不豫也、

〔榮花物語三十六根合内朱雀〕の御にきみの事、なほおこたらせら〇原本作おも給はねば、いかにとむづ
かしう覺しめす、ついたちのありさまなどおなじ事也、日ごろのすぐるまゝに、なほ水などいさ
せ給てやよからんと申せば、其さほふの御まつらひしていたてまつる、いとさむきころたへが
たげにみえさせ給、〇中寛徳二年正月十六日に位ゆづりの事ありて、春宮〇後冷泉わたらせ給、絲毛
にて参らせ給、いとみじき御ありさまを、よそにおぼしめしつるよりも、いみじうかなしくお
ぼしめさる、いみじうなかせ給へば、かくななき給そ、上東門院〇彰によくつかうまつり給へ、二